

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況 達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。 その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価 評価基準により段階評価を行う。		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育課程の構成を見直し、子どもの育ちを見通しながら援助を共有するためのツールとして、ラーニングマップを作成した。 ・3学年1クラスなので、内容に応じて、年齢に合った内容や支援の仕方を工夫した。	3	4	・来年度は再び2クラスに戻るため、今年度作成した「ラーニングマップ」を見直しながら、学級経営を行う。 ・各クラスの指導計画を持ち寄り、活動の方向性を話し合うなど、担任間の連携を大切にしている。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・ラーニングマップを作成する際、幼児の実態や発達、期にふさわしい姿や願い等を話し合うことで幼児理解の学びにつながった。 ・年長・年中・年少の子どもたちが、遊びの中で、年齢に応じて熱中したり、くり返し試したりできるように工夫した。	3	4	・学級での活動と全園児活動を効果的に取り入れるためにも、幼児理解に努める。 ・2クラスになるため、「エピソードボード」を活用するなどして、情報共有し、子どもを多面的に捉えていくよう努力する。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別支援教育補助教諭と連携を図り、その子に必要な支援を継続するよう試みた。 ・くり返し経験させたことは、本人の力になりつつある。	3	4	・発表会を見て、表出する言葉が豊かになり、成長を感じたという感想をいただいた。今後も、巡回相談など専門機関からのアドバイスがもらえる機会を積極的に活用し、個に応じた支援方法を探る。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・遊びの振り返りを通じて、話せる子ども、聞くことのできる子どもの育成に努めた。 ・困った時に声を出せる子どもの育成を継続した。	3	3	・日々の遊びの振り返りや帰りの会での話し合いの場を大切にして、話せる子ども、聞くことのできる子どもの育成を継続する。 ・いろいろな友だちと関わる体験を大切にし、困った時に声を出せる子どもの育成を継続する。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・特に2学期は、園外活動を効果的に取り入れ、日々の遊びや体育会の種目、生活発表会の劇や発表にうまくつなげることができた。	4	4	・園外保育で得た体験が、遊びや生活にどのようにつながるか見通しを持って取り組む。 ・今後も遊びや生活の中で子どもたちが感じたことを中心に、体育会の種目や発表会の内容を作っていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・今年度も5年生との交流を続け、田んぼの活動を中心に、体育会でも交流できた。小学校が身近な存在となっている。 ・市内の他園と交流する機会を作り、交流の幅を広げることができた。	3	4	・今後も、小学校が身近なものに感じられるように、小学校との交流や連携を続ける。 ・他園との交流について良い評価をいただいた。引き続き、市内他園との交流を探る。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・今年度も、ホームページの更新を続けた。また、PRポスターや、園だよりを作成し、体育会や小学校の生活発表会でもPRしたので、幼稚園の様子を知ってもらうことができた。 ・入園希望で見学に来た友だちにもフレンドリーに接することができた。	4	4	・ホームページを楽しみにしているというご意見を多数いただいている。今後も、ホームページでの情報発信、園だよりの発行等、園の様子を伝える活動を継続する。 ・園児数確保に向けて、引き続き様々な連携を継続する。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・保育を進めるうえで、日々の子どもの姿を振り返り、翌日の保育構想や教材準備を話し合った。 ・2学期以降は、職員で連携しながら、誰もが担任のつもりで取り組んだことは効果があった。	3	3	・今年度は、保育内容について、教育指導員からの指導を受ける機会がなかったので、今後は園内研究の一環として指導を受ける場を設定したい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・担任だけでなく、誰もが子どもたちと関わりながら園務を進めたことは良かった。 ・職員一人一人の得意分野を生かして園務を進めることができた。	4	4	・子どもの姿や、保育に必要な情報を気軽に伝え合うように努め、大事なことがすぐに共有できる風通しの良い職場を継続する。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・すべての部屋の内カギができるようにしたことは、安全上とても良かった。 ・3台の防犯カメラを設置してもらったので、来客のチェックが出来るようになり、安全性が高まった。	4	4	・1月の地震発生時の対応が素晴らしかったと言っていたので、今後も危機管理マニュアルの見直しや避難訓練、対応訓練を行い、いろいろな場面を想定して、園児の安全を守るように努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月の安全点検を継続し、不具合には速やかに対応した。 ・老朽化したアクリル板は、強化ガラスに交換し、強度と明るさを確保した。	3	3	・引き続き、子どもが安全に過ごせるよう、常に安全を確認する。 ・明るく楽しい幼稚園になるよう、環境整備に気を配る。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する